

在制作のリサーチと、それに続く制作を経て実現した
展覧会で、山口県内の12人の職人さんたちに焦点を
当てたりサーチをもとに結実した成果です。伝統とし
て維持していくもの、時代に合わせて変化させていか
なければならないもの、リサーチを進めるうえで職人
さんたちの様々な苦悩や葛藤についてお話を聞くこと
ができました。その状況に現代美術の視点で新しい打
開策のきっかけを提案するという意味も含めて制作し
た作品群です。

形や色など、形式の決まった工芸作品などを少しず
つ抽象化したものが、《抽象水彩静物画(水彩画)》で
す。人物を除いて、人工物などを自由に配置して描くヨ
ーロッパの絵画形式である「静物画」(Still Life)を
参考にし、特にその中で取り扱われるカテゴリーの一
つである「儚さ」(Vanitas)と、ものづくりの職人さん
たちが制作環境を重ね合わせた作品です。色を排除し
たり、輪郭線だけにしたり、まったく形を変化させたり
して、子供達に馴染みのある塗り絵の形式にすること
で、色や形の想像を誘発する視覚的な試みです。

《作り手(ビデオ)》は実際に職人さんたちの工房で
お話を同った際に撮影した動画を、極力手先の動きに
焦点を当て、普段、馴染みのないものづくりの制作過
程を神秘的に映し出すビデオ作品です。全部で12場
面で構成され、それぞれ15秒から1分30秒ほどの断
片化された超短編場面をつなぎ合わせた内容になっ
ています。

《神様たちの聞く音色(冊子)》は、《作り手》のビデ
オ作品が表現する職人さんたちの神秘的な印象を、フ
ィクションとして神話的に書き下ろした短編文章作品
です。実際の取材をもとに発展させた内容で、文章を
通して観念的に想像を膨らませる試みです。文中には
ビデオや平面作品では表現されていない美術史や美術
作品を想起させる内容も含まれています。

伝統の維持や時代に合わせた変化の間で起こる苦
悩や葛藤を抽象的かつ観念的に事実とフィクション
を織り交ぜた作品群として、また、山口県内の工芸を
新たな視点と感覚で見えていただける機会として、理解
や解釈を楽しんでいただければ幸いです。

職人さん:大谷提灯店(提灯)、民芸くらもと(土鈴)、
安藤石材(石灰石)、明善窯(萩焼)、日枝玉峯堂(赤間
硯)、中原木材工場(木工家具)、岡本染工場(染物)、
岩国石人形資料館(石人形)、柳井縞の会(柳井縞)、
やない西藏(金魚提灯)、秋山養蜂(蜜蝋)、中村民芸
社(大内塗り)

《虹を歩く...》
Walking on a rainbow...
写真、2017

旅先で出会った偶然の出来事を記録した作品です。
ドイツとフランスの国境近く接するスイスのパーゼル
市にあるFoundation Beyelerの敷地内で撮影し
たものです。イタリア人建築士レンゾ・ピアノ(Renzo
Piano)による建築物のガラス素材に反射した太陽の
光がたまたまある特定の日の特定の時間に足元に出現
していた様子を主観性を強調する構図で撮影した

ものです。抽象的な形状、偶然性、一時性などを捉え
た写真作品です。

--- 神棚 ---

《石塚、または、惑星直列》
Cairns, or Syzygy
石(山口、フランス、スコットランド、アイスランドなど
旅先で出会った石)、写真、2017

旅をし、石を広い、石を積み重ねた行為を写真に収
めたもの。色、形、重さなど様々な石のバランスをとり、
積み重なった瞬間を撮影しました。人為的に鉱物を直
列させたもので、宇宙の自然現象である惑星直列の特
異性に絡めた作品です。また、石を積みむ行為自体も人
類の原初的な行為として理解でき、それ自体が意味す
るものは状況によって「道標」や「墓石」などの特定の
意味もあれば、ただそれ自体が存在するだけという意
味もあります。人為的だが無目的な神秘性を持ったオ
ブジェが均衡を保つこと、それは審美感的にも均衡の
取れた状態と理解することもでき、それ自体が純粋な
美を表現していると感じています。

《J...》
J...
アート・ブック、2015

このアート・ブックは、作家とビジュアル・アーティ
ストの共同制作を提案するフランス人キュレーターのジ
ェルヴェ・ジャスード氏(Gervais Jassaud)によって
実現したものです。ジャスード氏はフランス『ヌーヴォ
ー・ロマン』の代表的作家ミシェル・ビュートル氏
(Michel Butor)を私と組にしました。ジャスード氏
がこのアート・ブックを『J...』というタイトルにし、ビ
ュートル氏の短編作品が5作品収められた36ページの
作品が、版画技法で第1版から第12版まで用意され、
私がそれらすべての冊子の視覚を制作しました。これ
ら12冊の作品はすべて異なり、実験的な作品となっ
ています。

《回復力に関する視線の物語》
Story for the vision of resilience
寄稿文(パネル)、2016

自然災害の多い日本において30年以上続くの原子
力発電所建設計画を取り巻く政治的な均衡状態を、
自然の摂理やアニミズム的な視線で現実問題を物語
風に風刺した寄稿エッセイです。

《名もなき日々の試み...(エジンバラ)》
Attempts in Nameless Days...(Edinburgh)
ビデオ(1分)、2017

複数人で行う課題シリーズを考え、書き留め、実践
し、達成感を共有することを目的として、スコットラン
ドのエディンバラにて開催されたパトリック・ゲデス・
ラーニング・フェスティバルでのワークショップで行わ

れた7つの課題を実験的に行ったプロジェクトの記録
映像です。作品として記録に収めることで、日々の現実
がまさに個々人の行動によって作られていくことを客
観的に映し出した作品です。

課題:居住地の特定、集合写真、円になって自画像、パ
トリック・ゲデス(Patrick Geddes)の署名、入り口
をパトリック・ゲデスの署名で装飾、パトリック・ゲデ
スの肖像レリーフとセルフイー、落ち葉で「By
Leaves We Live」を飾り付け

--- 洋室 ---

《宇宙毛布スーツ・パターン(黄金のフリース)》
Space Blanket Suit Pattern... (Golden Fleece)
ミクスト・メディア、2017

この作品は、紀元前3世紀に書かれた『アルゴナウ
ティカ(Argonautica)』という叙事詩に出てくる未知
の地(コルクス)から金羊毛(Golden Fleece)を取
り戻すという航海の物語に、私的に現代的な解釈で制
作したものです。NASAが宇宙プロジェクトのために
開発されたスペース・ブランケットを生地として、スー
ツの型を切り取って残った素材を展示しています。そ
の主体となるスペース・スーツ自体は、どこかに行って
しまい、その痕跡だけが残っているという作品です。

《風に吹かれて見える風景...》
Landscape visible by blowing winds...
旗、2017

晴天の空を撮影した写真を旗に写真印刷した旗作
品です。青空の写真が掲げられ、風によって空の風景
写真が揺れる様子を表現した作品です。風が吹けば
形状が変わる旗の特性や、タイトルにあるような文字
遊びの要素、また空という同質のものを代替物で表現
する手法の組み合わせによって、無目的で詩的な表現
をした作品です。

《声、声、声...(#2)》
Stimme, Stimme, Stimme...(#2)
素描コラージュ、2017

宇宙や未来、神話を取り扱った漫画7種類から吹き
出しを切り出して、月の裏側のような暗い宇宙空間に
漂う叫び声を表現した作品です。それぞれの吹き出し
はすでに有名漫画家による想像上のキャラクターの
発した言葉の数々で、それぞれ時代も設定も異なる内
容がこの絵画空間では混在しています。ある意味では
30代~50代くらいの漫画世代の人たちのもっていた
懐かしい未来像や精神風景を表現した作品です。

漫画:鉄腕アトム、聖闘士星矢、マクロス、新世紀エヴ
ァンゲリオン、さらば宇宙戦艦ヤマト、銀河鉄道999、
ブッダ

UNIVERSE
ABSTRACT
VISUAL RHE
NSTELLATI
LIFE PHIL
S PHY

EXHIBITION / 展覧会

宇宙 / 抽象 / 視覚的修辞法 / 星座 / 人生観

Keijiro Suzuki
2017 / 12 / 8 - 10
N3 ART LAB

【主催】 N3 ART LAB / cagerowproduction / the temporary space
【協力】 防府天満宮 / Yamaguchi Institute of Contemporary Arts (YICA)
【Website】 www.cagerowproduction.com / http://n3-art-lab.com/